

高等学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

保 健 体 育

東京都教職員研修センター

目 次

主題設定の理由及び研究計画

1 主題設定の理由	2
2 研究計画	2

研究内容

1 研究仮説の設定	3
2 研究経過	3
3 研究の視点	4
4 研究の方法	4
5 研究構想図	5
6 実践報告	6
(1) 体育分科会	6
(2) 保健分科会	15

研究成果と今後の課題

1 研究成果	23
2 今後の課題	24
3 まとめ	24

研究主題：生徒の適切な自己評価能力を高める個に応じた学習指導の工夫

主題設定の理由及び研究計画

1 主題設定の理由

保健体育は、「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことを目標としている。このねらいを実現するためには、計画的に運動に親しむ資質や能力、健康を保持増進していく実践力の育成が求められる。私たちは、評価規準を明示して生徒の学習意欲を高める工夫をしたり、生徒の主体的な学習を促す指導方法の開発に努めてきた。

しかし、生徒の学習内容の理解や習熟の程度は生徒によって異なり、解決しなければならない課題は生徒によって様々である。今の自分を客観的に見つめ自己を分析する力や、課題を設定する力も個々により差がある。そこで、個に応じた学習指導の工夫が大切になってくる。

教員が生徒一人一人の興味・関心を把握し、生徒が主体的に取り組むことができる授業を展開していかなければ、生徒の学習活動は深まりや発展を見せず、単なる技術と知識の蓄積に終わってしまう。学習したことを日ごろの生活に役立てようとしていく実践力をはぐくむためには、授業内容が楽しく、意欲的に取り組める内容であるとともに、生徒が授業内容と日常生活を関連付けて学習できる工夫が必要である。生徒が、日常生活を考え、授業に取り組むためには、日常生活における生徒自身の課題を確実に把握できることが重要となる。そして、生徒が、自己の課題を把握するためには、自己評価能力を高め、自己認識をしなければならない。生徒は、適切な自己評価から自己の課題を発見し、そして、授業を通して自らの課題に取り組み、課題の解決が図られた時、生徒は大きな喜びと充実感を実感する。その達成感の積み重ねが次への意欲と行動力へつながり、更なる目標に向かっての主体的な活動へと発展していく。

そこで、生徒が自己評価を高め、課題を発見し、自己の課題解決に向けた取り組みを行う過程において、教員が、生徒への個に応じたきめの細かい指導を積み重ねることができれば、生徒自身が保健体育の観点から自らの健康状態を正しく把握し、生活習慣を維持・改善することができるようになり、ヘルスプロモーションを実践していく基盤ができると考え、主題を設定した。

2 研究計画

- | | |
|--|----------|
| (1) 研究主題、研究計画、研究構想の検討及び決定
学習指導要領の確認
各校の生徒の実態及び課題の分析・共通研究テーマの設定 | 5月 |
| (2) 研究仮説の設定、生徒・教員向けアンケート作成 | 6月 |
| (3) アンケートの実施・集計・分析 | 7月 |
| (4) 研究計画の再確認、理論の構築、実証授業計画
実証授業の単元及び学習内容の検討及び教材開発 | 8月～ 9月 |
| (5) 実証授業 仮説の検証
生徒の成長・変化を分析 | 10月～ 11月 |
| (6) 研究のまとめ、研究報告書作成、研究発表原稿作成
研究報告書完成 発表原稿の検討 プレゼン用資料の検討 | 12月～ 1月 |
| (7) 研究発表 | 2月 |

研究内容

1 研究仮説の設定

本研究部会では、生徒一人一人が適切な自己の課題や目標をもつことにより、生涯にわたって主体的にスポーツに親しみ、健康を管理し、改善していく実践力が育成されるものと考えた。

しかし、生徒は、知識や理解があっても、そのことを自己の生活にあてはめ、自己の課題として捉えることができず、実践することが困難な状況である。生徒が、自己の課題を認識し、課題解決を図ろうとするには、まず、自己の現状を把握することが重要である。そのためにも、教員は、自己の健康状況を適切に評価する力を育成することが必要である。また、自己の適切な課題を把握する力を育成するためには、教員は、生徒一人一人の健康状況に合わせて、課題設定や課題解決を図る過程においての指導・助言が重要である。

そこで本研究部会では、各学校における現在の保健体育の授業の実態を調べるとともに、生徒の自己評価能力の育成を目指すことをねらいとした。特に、個に応じた指導の工夫として、個人カードの工夫を図った。このことにより、生徒が適切な自己評価ができるように、教員が、生徒個々の課題に応じた指導をより一層行うことができるようにした。

生徒は自己評価能力が高まることにより、正しく自分を見つめることができる。そして新たな課題を設定できるようになり、その課題を解決していくという過程をたどることになる。その繰り返しが、保健体育の目標である「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことにつながると考える。

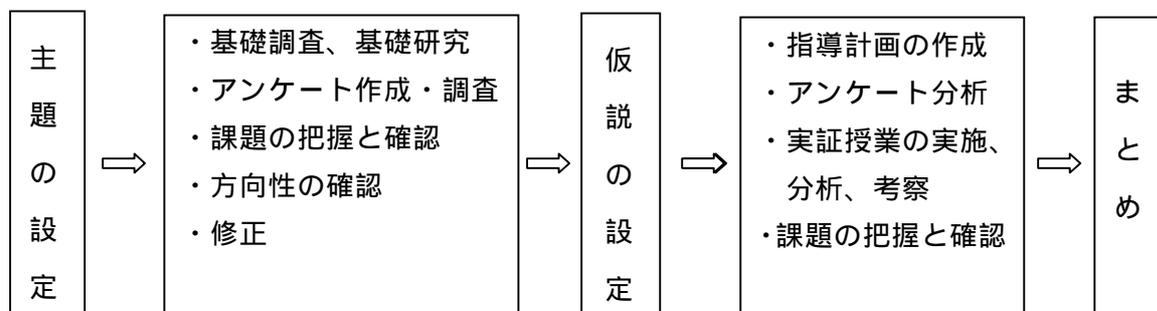
以上の理由から以下のような仮説を設定した。

《仮説》

個人カードによる個に応じた指導の工夫により、生徒は適切な自己評価能力を高めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することができるようになる。

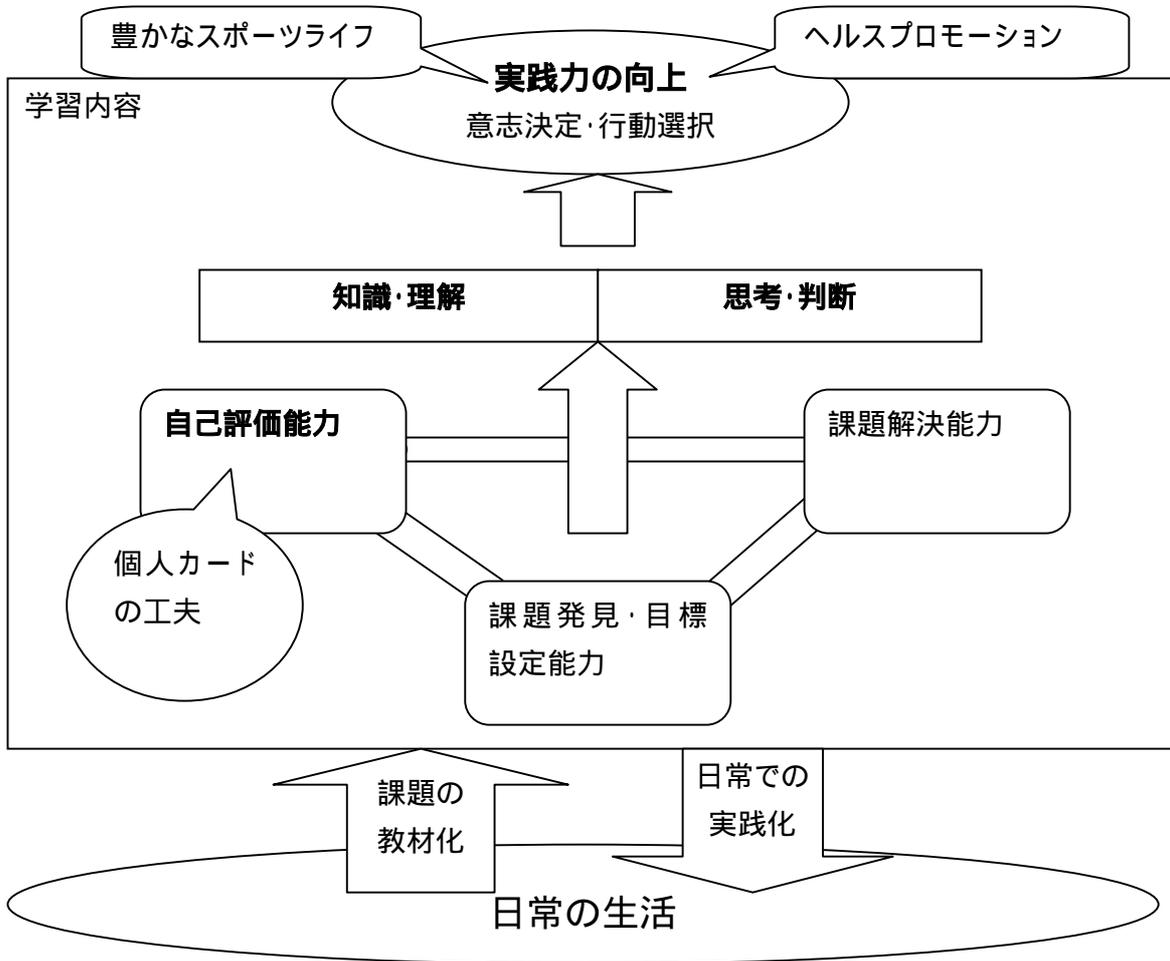
2 研究経過

本研究の一年間の研究経過はおおよそ次のとおりである。



3 研究の視点

自己評価能力の向上への支援に視点を当てた。



4 研究の方法

(1) アンケート調査の実施

生徒を対象に、授業への興味・関心・意欲、評価規準の有無を事前調査する。

(2) 単元計画の作成と評価規準の設定

アンケート調査の結果を踏まえた、単元計画を作成し、評価規準を設定する。

(3) 課題解決ノート・健康管理カードの作成

アンケート調査の結果を分析し、単元計画に照らし合わせ、各校・個人に対応できる課題解決能力、自己評価能力、課題・目標設定能力の向上を図るための教具を作成する。

(4) 授業の実施

実証授業を実施する。

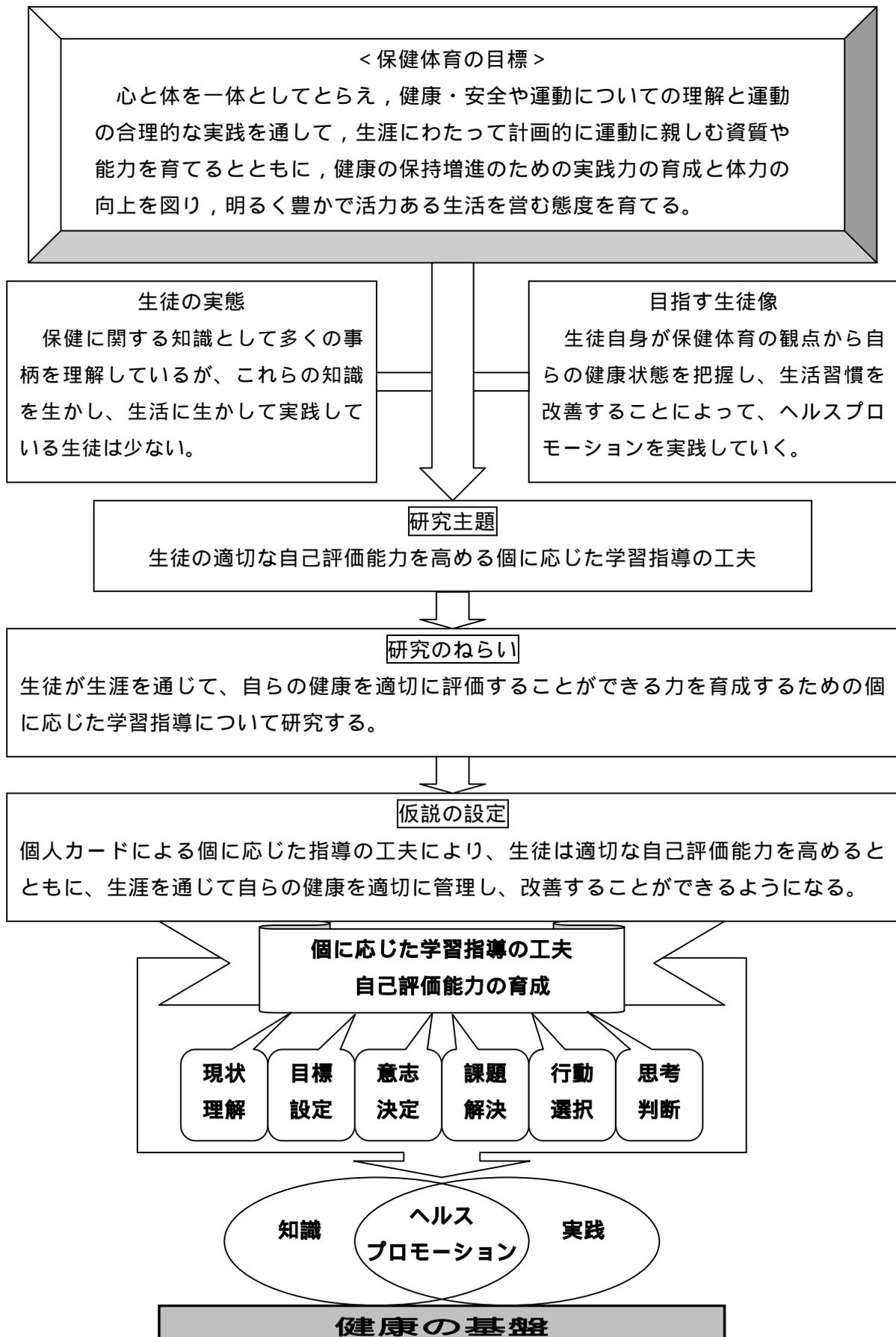
生徒による自己評価活動と授業評価を実施する。

(5) 単元終了後の生徒の意識調査と授業者による授業分析

単元終了後にアンケート調査を実施し、生徒の意識の変化を調査する。

授業者による、仮説の検証を行う。

5 研究構想図



6 実践報告

(1) 体育分科会

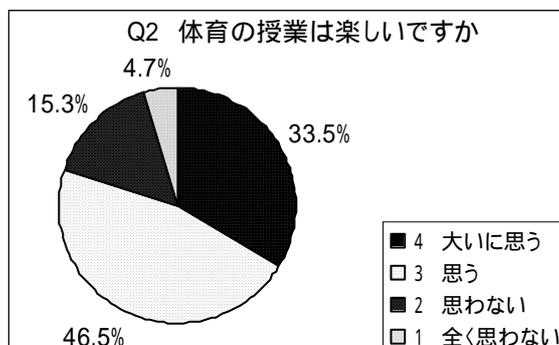
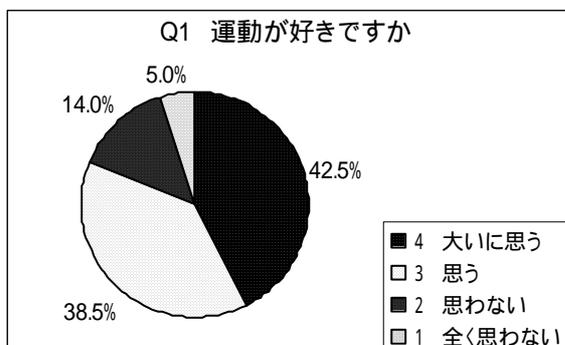
体育分科会【体育授業に関するアンケート集計（東京都立高等学校生徒 1,625 名、東京都立高等学校に勤務する教員 213 名）】質問項目は、以下の通りである。

Q 1	運動が好きですか	(生徒のみ)
Q 2	体育の授業が楽しいですか	(生徒のみ)
Q 3	運動やスポーツに関心をもっていますか	(教員用 Q 1 と比較)
Q 4	体育の授業で学びたいことはありますか	(教員用 Q 2 と比較)
Q 5	体育の授業に意欲的に取り組んでいますか	(教員用 Q 3 と比較)
Q 6	自分の課題や目標をもって授業に取り組んでいますか	(教員用 Q 4 と比較)
Q 7	練習方法等を自分で工夫して考えていますか	(教員用 Q 5 と比較)
Q 8	自分の課題を考え、練習に生かしていますか	(教員用 Q 7 と比較)
Q 9	練習方法や課題解決のための方法を知っていますか	(教員用 Q 6 と比較)
Q 10	自己の評価を適切にすることができますか	(教員用 Q 8 と比較)
Q 11	種目の特性やルールを理解していますか	(教員用 Q 9 と比較)
Q 12	自分の体力や技術を理解していますか	(教員用 Q 10 と比較)
Q 13	種目の技術や技能の向上を感じたことがありますか	(教員用 Q 11 と比較)
Q 14	体育の授業は、健康・体力の保持増進に役立っていますか	(生徒のみ)
Q 15	体育の授業で何を求めていますか	
Q 16	あなたにとって楽しい授業とは、どのような授業ですか	

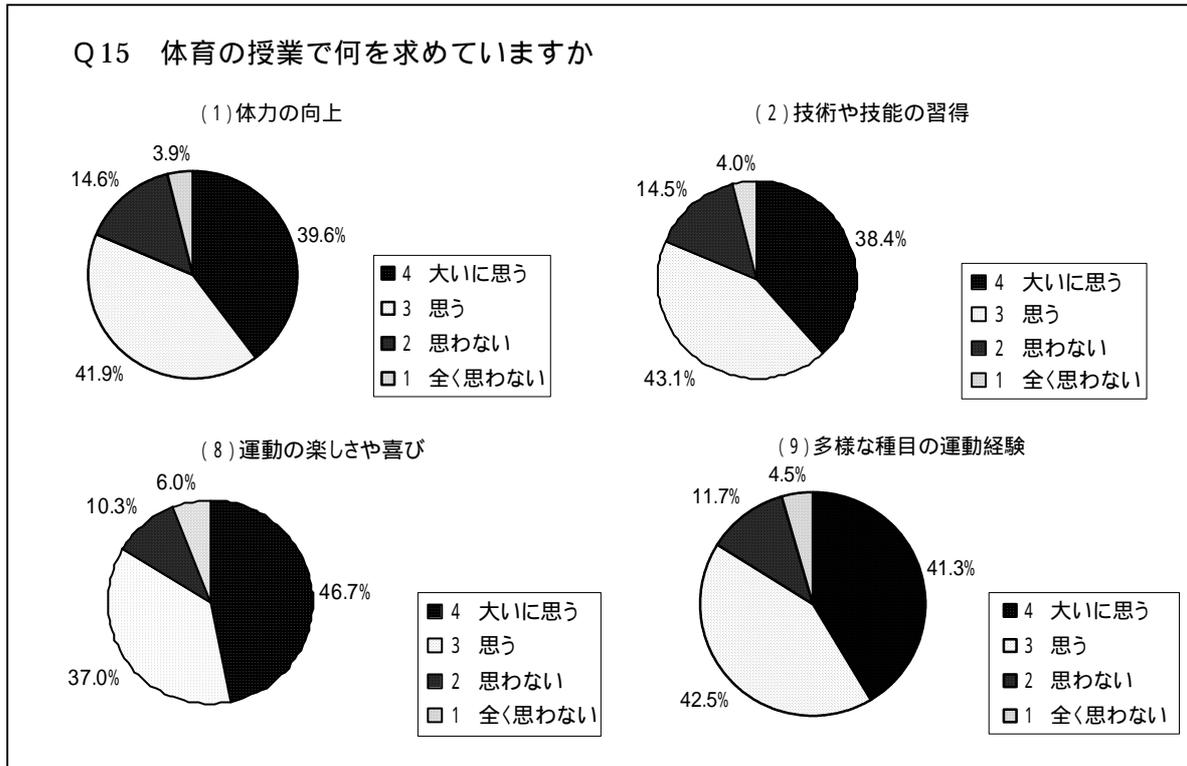
アンケート結果と考察

ア 生徒の実態について (Q 1、Q 2、Q 15、Q 16)

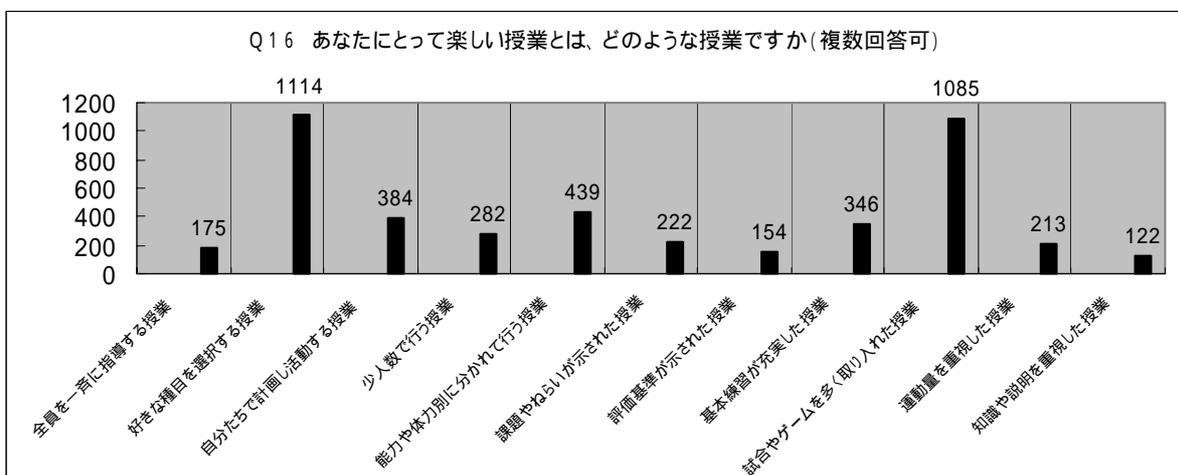
「運動が好きですか」(Q 1)、「体育の授業が楽しいですか」(Q 2)では、81%の生徒が「運動が好き」、80%の生徒が「体育の授業が楽しい」と「思う」と回答した。しかし、19%の生徒が「運動が好きと思わない」、20.0%の生徒が「体育の授業が楽しいと思わない」と回答した。全体の傾向としては、運動や体育に好意的であるが、約 20%の生徒は「運動・体育嫌い」の傾向を示した。



また、「体育の授業で何を求めていますか」(Q15 下図(1)(2)(8)(9)参照)では、「体力の向上」「技術や技能の習得」「運動の楽しさや喜び」「多様な種目の運動経験」については、「思う」「大いに思う」「思う」を合わせた)という回答が80%以上を超えた。その他の項目「健康・安全の対応の仕方」「ルール等を理解し、体育の知識を増やすこと」「公正・協力・態度」「人間関係を築くこと」「自分で課題を解決する能力」についても、「思う」という回答が60%以上を超えた。



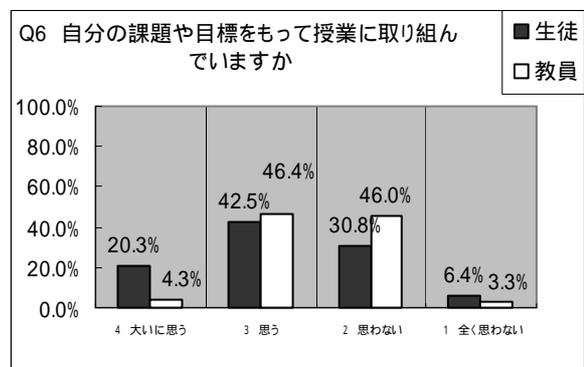
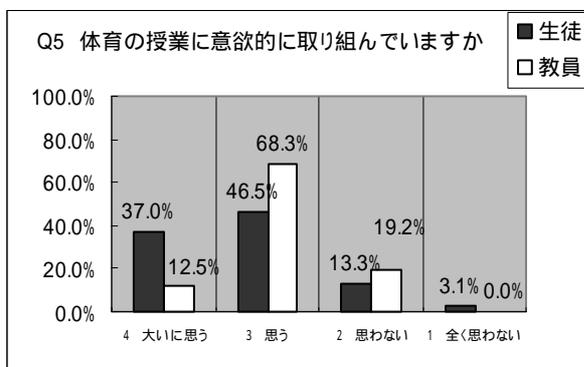
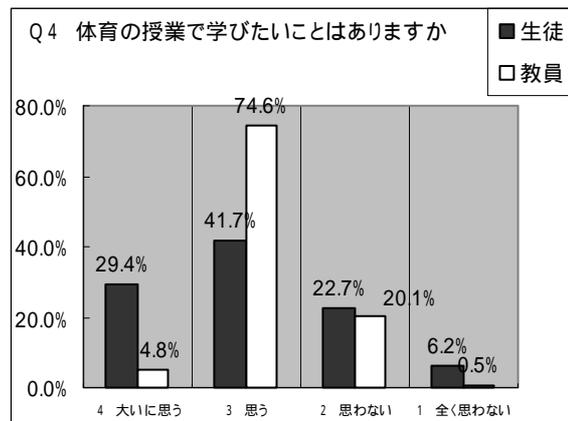
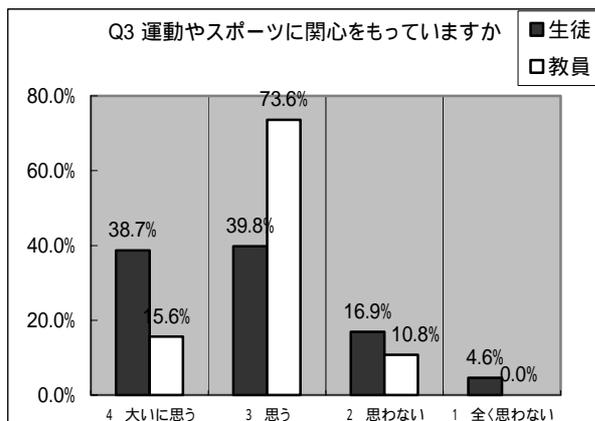
「あなたにとって楽しい授業とは、どのような授業ですか」(Q16)では、「好きな種目を選択する授業」と「試合やゲームを多く取り入れた授業」が非常に多く、次に、「能力や体力別に分かれて行う授業」「自分たちで計画し活動する授業」であった。生徒が体育の授業で求めていることを学習させ、楽しいと感じる授業を行うには、どのような指導工夫があるのか、さらに考えなければならない。



イ 生徒の関心・意欲・態度について（Q3～Q6）

「運動やスポーツに関心をもっていますか」（Q3）、「体育の授業で学びたいことはありますか」（Q4）、「体育の授業に意欲的に取り組んでいますか」（Q5）では、生徒と教員共に、70%から80%が、「思う」と回答した。

しかし、「自分の課題や目標をもって授業に取り組んでいますか」（Q6）では、生徒の62.8%が「思う」と回答し、教員の50.7%が「思う」、49.3%が「思わない」と回答した。これは、教員の半数近くが、生徒は授業に意欲的であるが、課題や目標をもって授業に取り組んでいないと考えている。また、生徒が課題や目標をもたないのは、授業に対して課題や目標を設定しない場合と、自己の現状を理解できず設定できない場合があると考えられる。

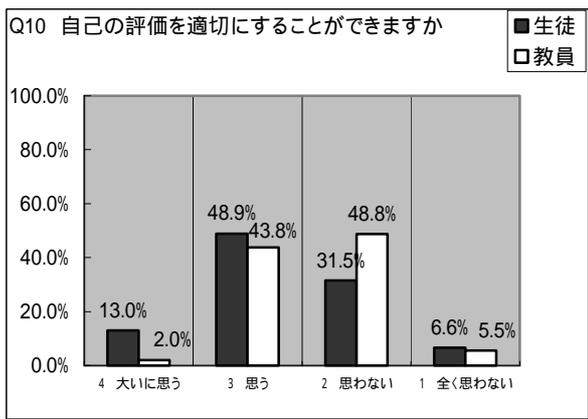
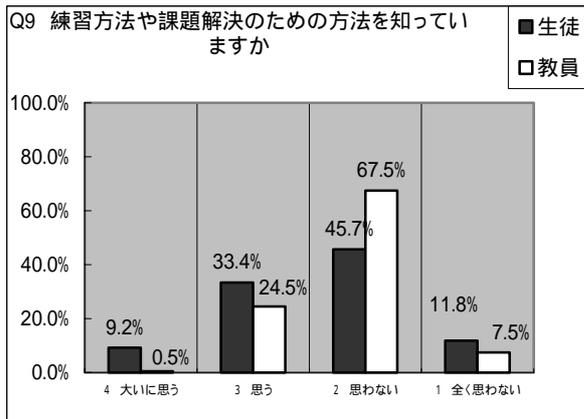
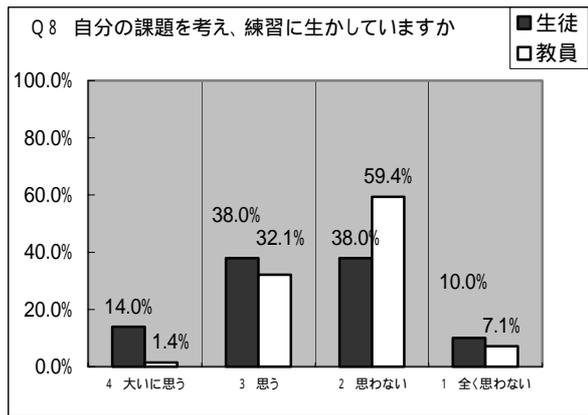
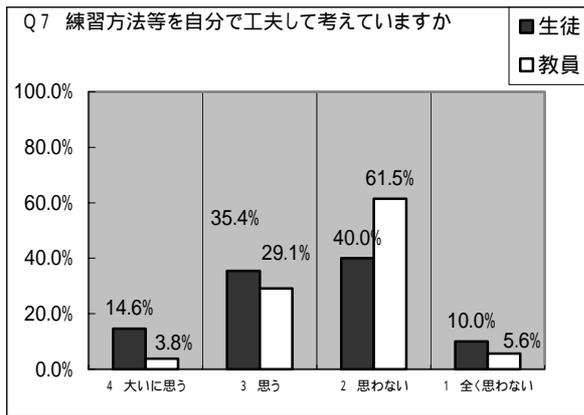


ウ 生徒の思考・判断について（Q7～Q10）

「練習方法等を自分で工夫して考えていますか」（Q7）、「自分の課題を考え、練習に生かしていますか」（Q8）、「練習方法や課題解決のための方法を知っていますか」（Q9）では、生徒と教員共に、50%から60%以上が、「思わない」と回答した。これは、授業に課題をもたずに取り組む生徒や、練習方法や課題解決方法を知らない生徒が多いと考える。

また、「自己の評価を適切にすることができますか」（Q10）では、生徒の61.9%が「思う」と回答したのに対して、教員の54.3%が「思わない」と回答した。

これは、生徒自身は適切に評価していると考えているが、教員は生徒が適切な評価をしていないと考える。その理由としては、課題や目標をもっていない生徒や自己の現状や課題がわからず客観的に評価できない生徒がいると考える。

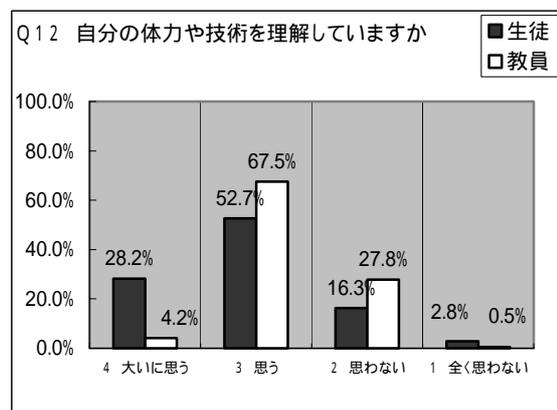
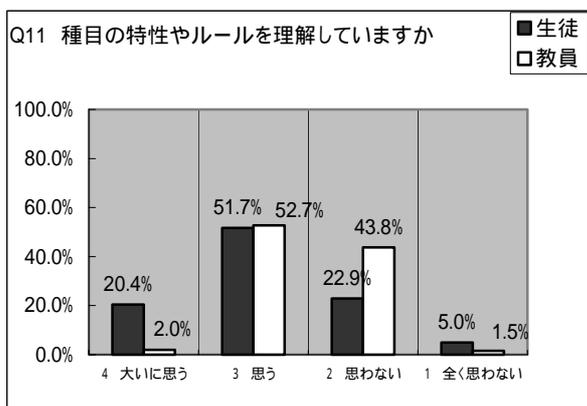


エ 生徒の知識・理解について (Q11～Q12)

「種目の特性やルールを理解していますか」(Q11)では、生徒の72.1%が「思う」と回答したのに対して、教員の54.7%が「思う」、45.3%が「思わない」と回答した。

これは、生徒の種目やルールの理解については、教員から見ると生徒自身が思っているほど、高くない。生徒の知識・理解が高くないのは、体育の授業において、生徒が種目の特性やルールを理解したかどうか具体的に示すことが少ないことや、ノート等を活用しても「頑張る」や「努力した」等の抽象的な表現が多いからと考える。

また、「自分の体力や技術を理解して取り組んでいますか」(Q12)では、生徒と教員共に、70%から80%が、「思う」と回答し、生徒自身の体力や技術などの運動能力については、理解しているのではないかと考える。



アンケート結果のまとめ

このようなアンケート結果から、次のような傾向をもつ生徒が多いことが分かった。そして、それを基に、生徒一人一人が、主体的に取り組めるような楽しい授業にするには、どのような指導方法があるか考え、仮説（ - 1 参照）をたて実証授業を行った。

< 生徒の傾向 >

- 1 授業の中で課題や目標をもっていない生徒が半数いる（ P 8 の Q 6 参照）
- 2 練習方法や課題解決の方法がわからない生徒が半数以上いる（ P 9 の Q 9 参照）
- 3 種目のルールや特性を理解する力や自己の能力を適切に評価できない生徒が半数いる（ P 9 の Q 10、 Q 11 参照）

< 実証授業の要点 >

自己評価能力の向上への支援という視点から、特に下記の 1 を中心に実証授業の学習指導計画を作成するとともに学習指導の工夫を図った。

- 1 課題解決ノートや補助シートの活用を行う授業
課題や自己評価、感想、反省、次回への課題、教員からのアドバイスなどを記入する個人ノートを活用し、授業の振り返りを行い、生徒の自己の課題を明確にし、それに対しての自己評価を繰り返し行う。この過程において、教員が、生徒一人一人に個人カードのアドバイスによる支援を行う。このことによって、生徒が、自己評価を適切に行い、自己評価を高めることを目指す。このことが、生徒一人一人に応じた指導につながると考える。
- 2 課題や目標の設定を行う授業
自己の現状を把握し、主体的に取り組むことができるために、毎回授業開始時に、生徒が、個々に本時への課題や目標を立てる。
- 3 ファイルを作成し、「思考・判断」や「知識・理解」を向上する授業
練習方法や課題解決のための方法を多く例示したファイルを作成し、より発展的な学習が行えるようにする。また、種目のルールや特性を、図や文章により理解できるようにする。

実践報告（体育）

第1学年男子 種目「バドミントン」 授業概要

ア 実証授業

第1学年男子を対象に、学習単元「バドミントン」について、10時間の実証授業を計画し、研究主題に沿って実践した。基本練習を重視しながら、学んだことがゲームに生かせるよう各種フラインクのねらいを明確にして指導した。私たちは、事前に調査した各校の生徒の意識調査の結果を参考に、生徒が課題や目標を設定し、生徒自らが練習方法を工夫し課題解決を図れる授業、生徒が種目のルールや特性を理解し、自己の能力を適正に評価できるよう支援する方法を検討し、その手助けとなる補助教材を開発し活用することにした。

本単元では楽しい授業を通して、生徒自ら課題を発見し解決する能力を育成することを主眼において授業を展開した。また、課題解決が図られたときの喜びと達成感が更なる目標への主体的行動に発展すると考えた。

イ 本単元の特徴

課題設定と言っても、運動能力やメンタル面で生徒の課題は様々であり、同時に自分を客観的に見極める力にも個人差がある。そこで、個に応じた指導の工夫が大切になってくる。本研究では、「課題解決ノート」を開発し、このノートを用いて生徒自ら課題を発見し解決する能力の育成を支援することにした。

ウ 個に応じた指導の工夫

「課題解決ノート」の活用

- ） 生徒が「何となくうまくできた。」「どうもうまくいかない。」と感じた課題をイメージで終わらせず「言葉」に表現させ「何が」「どうして」を具体化して自己分析する習慣を身に付けさせる。
- ） 生徒は授業終了後、必要事項を記入し自己評価する。その際、教員は自分に合った課題を設定するようアドバイスする。
- ） 授業者は、毎回点検して、生徒の現状と課題を把握し、次の指導・助言に生かす。

記入例

月日	学習内容	記録・反省	次時の課題	出欠	学習効果		
					技術	意欲	態度
5 / 15 (金)	・体操・ランニング ・スマッシュ&レシーブ (2人1組) ・ダブルスのラリー ・ダブルス7点ゲーム ・記録・反省	・体操はしっかりとやった。ランニングは歩いた。次回はしっかり走る。 ・スマッシュに角度がなく時々アウトしてしまっている。 ・ラリーは跳くようになった。 ・相手の正面に打ってしまうため不利になることが多い。	・体力トレーニングは積極的に取り組む。 ・スマッシュを決められるようにする。	出席 欠席 遅刻 見学	A B C	A B C	A B C
	本時の目標	スマッシュを決められるようにしっかりと打つ。			目標達成度		
					A	B	C
メモ	Aさんとペアを組む。Aさんは相手の逆サイドに打つのがうまい。ハイクリアーもよく飛ぶ。対Bさん、Cさん組4-7で負け。対Dさん、Eさん組6-7で負け。(クヤシーイ！)						
コメント (教員欄)	スマッシュを打つ場合、肘が下がらないようにしましょう。体重移動はスムーズになってきました。						

工 実証授業計画
 対象 第1学年 男子30名
 単元 バドミントン
 目標 バドミントンを通して運動に親しみ、日常生活においても積極的に運動を取り入れていく態度を養う。
 また、課題解決ノートを活用し、教師や周囲のアドバイスを傾けて、自己分析ができるようになる。

各時間のねらいと評価規準

時間	ねらい	学習活動				評価規準				しない生徒への手 だて		
		オリエンテーション	授業説明	バドミントンの歴史	競技の特性・養われる運動能力	課題解決ノートの活用と意義	基礎技能	ラケットの握り方(グリップ)	ラケット遊び(操作)		構え(待球姿勢)	関心・意欲・態度
1 時間目	・種目の特性を理解し、バドミントンに関心をもつ。 ・課題解決ノートの活用を通して、生徒が主体的に授業に参加する姿勢を養う。 ・ラケットの両面で連続してつけるようになる。 ・素早く動ける構えができるようになる。	授業説明 ・バドミントンの歴史 競技の特性・養われる運動能力 課題解決ノートの活用と意義 基礎技能 ラケットの握り方(グリップ) ラケット遊び(操作) 構え(待球姿勢)	・バドミントンの特性に関心もち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・道具の準備、後片付けを進んで行う。 ・進んで練習やゲームに取り組もうとしている。 ・安全に留意して練習やゲームに取り組もうとしている。	・自分の能力に合った適切な課題を設定している。 ・自分の課題を解決するため適切な練習方法を考えている。	・バドミントンの競技としての特性を理解している。 ・バドミントンを通して高まる身体能力を理解している。	運動の技能 ・フライングの基礎となるハイクリアーを正しく打つことができる。 ・ラリーを続けることができる。	・背伸びをせず、基本練習を重視し、生徒の小さな技能向上も見逃さず、励ます。					
課題解決ノート	生徒:反省と次回の目標を記入 授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却	各種ストローク フォア バック 各種フライング ハイクリアー ドロップ サービス ショート ロング 試しのゲーム グループ分け	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
3 時間目	・打面が打つ方向に正しく向くようになる。 ・相手コートのバックラインを意識して深く打ち込めるようになる。 ・コースコントロールができるようになる。	各種フライング スマッシュ ヘアピン シングルスを中心とした簡易ゲーム	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
4 時間目	・スピード・角度・軌跡をフライングによってコントロールできるようにする。 ・シングルの簡単なルールを理解する。	各種フライング スマッシュ ヘアピン シングルスを中心とした簡易ゲーム	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
課題解決ノート	生徒:反省と次回の目標を記入 授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却	グループ練習 シングル(センターライン境目) ダブル(センターライン境目左右受け持ち)	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
7 時間目	・相手の動きに応じて決め球を打てるようになる。 ・2人の分担を決め協力してゲームができるようになる。	グループ練習 シングル(センターライン境目) ダブル(センターライン境目左右受け持ち)	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
8 時間目	・ゲームを楽しめるようになる。 ・ルールや審判法を理解する。	シングルゲーム ダブルゲーム ・まとめ	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
課題解決ノート	生徒:反省と次回の目標を記入 授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却		授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
9 時間目	・ゲームを楽しめるようになる。 ・ルールや審判法を理解する。	シングルゲーム ダブルゲーム ・まとめ	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
10 時間目	・ゲームを楽しめるようになる。 ・ルールや審判法を理解する。	シングルゲーム ダブルゲーム ・まとめ	授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									
課題解決ノート	生徒:反省とまとめ、感想を記入 授業者:生徒の課題把握・講評 返却		授業者:生徒の課題把握・アドバイス 返却									

オ 生徒の課題解決ノート

生徒自身に合った課題を設定するよう助言する。また、生徒の変化や成長を適切に評価し生徒に知らせる。

月日	学習内容	記録・反省	次時の課題	出欠	学習効果		
					技術	体力	態度
11/11 (木)	・体操 ・シャトルリレー ・フロントワーク各種 ラリー (練習試合)	・しっかり体操できた ・何度も打ち上げから外れ落ちてしまった。 ・ラリーが前回よりも続けられたと思った	シャトルリレーの打ち上げでラケットが当たらないことが多かったのによく覚えて打とうと思	出席 欠席 遅刻 見学	A B C	A B C	A B C
	本時の目標	ラリーを続けるようにする			目標達成度 (A) (B) (C)		
メモ	前回からの目標のサーブが失敗せお打てるようになってきた						
連絡	ラリーを続けるためには、各種フライトをマスターする必要があります。〇〇君は、基本のハイクリアーと覚えて打てるようになって良、と思います。目標を具体的にすると頑張れると思います。						

月日	学習内容	記録・反省	次時の課題	出欠	学習効果		
					技術	体力	態度
11/12 (木)	・体操 ・ストレッチ ・ウォーミングアップ ・ハイクリアーのフォーム ・ハイクリアーの練習 ・試合	・最後の試合で、全勝することになった。 ・全体的にフォームが悪いような気がした。	自分のフォームを理解し、おぼせることはなく。	出席 欠席 遅刻 見学	A B C	A B C	A B C
	本時の目標	小さいなミスもなく。			目標達成度 (A) (B) (C)		
メモ	今日は3人の人と試合をして、すべて勝つことができた。けど、自分はフォームができていないので、13人の方と試合をして学びたい。						
連絡	〇〇君は、少なミスに、だわるより、フライトの基礎となるハイクリアーに重点を置、リラックスしてスムーズな体重移動で打つといいと思います。目標設定の再考を。						

月日	学習内容	記録・反省	次時の課題	出欠	学習効果		
					技術	体力	態度
11/11 (木)	・体操 ・シャトルリレー ・フロントワーク各種 ラリー (練習試合)	・ハイクリアーは簡単に上手に打つことができた。 ・ドライブもかなり上達した。 ・試合のなかで自分の力が減った感じがする。 ・全体的に先週よりは上達していると思った	もっと組んだ所組んだ球を打てるように努力したい。 試合中の上手なフォームをつかめるようにしたい	出席 欠席 遅刻 見学	A B C	A B C	A B C
	本時の目標	ラリーを長く & ハイクリアーを遠くに飛ばす			目標達成度 (A) (B) (C)		
メモ	ハイクリアーが気持ちいい球に遠くに飛ばせるようになった。その時の感覚も覚えてる。その感覚で多く打たいたいと思う。試合形式ではほぼ全勝。アタックも上手な球も打てる						
連絡	〇〇君は、自分がかい申したとおり、ここから選手長うなければいけないところを正々堂々に頑張っていると思います。また、バドミントンに熱心に取り組んでいる姿勢もよく頑張っています。						

生徒が、イメージする各種フライトの軌跡を描く。

3. フライトの種類

- ①ハイクリアー バックバウンダリーライン(一番後ろのライン)近くに落ちるようにできるだけ高く、速く打つショット。ラインの上から軌道に落ちる軌道が望ましい。
(相手を下げるために打つショット)
- ②ドリブンクリアー ハイクリアーより低く打つ攻撃的なショット。
(相手の足を踏ませてコート前方に落ちるショット)
- ③ロブ ネット際から大きく打ち上げるショット
(状況によって変わるが相手を下げるために打つショット)
- ④ウィップ ネットの高さくらいからクイックモーションで打つ低くスピードのあるソフトなショット。アンダーアームでネットより低い位置から打ち上げる
ショットの軌跡
- ⑤ドロップ 相手のコート前方(ネット際)に打つショット
(相手を前に出すために打つショット)
- ⑥フライブ 前と平行でネットすれすれに打つショット
- ⑦スマッシュ 高い位置から相手コートに連続的にたたきつけるショット
- ⑧ヘアピン ネット際のところから相手のネット際に打つショット
- ⑨ブッシュ ネットの高さ近くから相手コートに押し込むように打つショット

very good!!
……イメージが描けてます。



ラケット遊び(連続打ち上げ)



各種フライトの練習(ドロップ)



シャトルによるキャッチボール

カ まとめ

生徒は授業を重ねるごとに、ノートが返却されるのを楽しみに待つようになり、授業後、指導されたノートがかえってくると、早速開いて友達と見比べて談笑している場面を多く見かけるようになった。実証授業1時間目のオリエンテーションの説明では、生徒の消極的な状況も見受けられたことを考えると、大きな変化である。

教員と生徒が授業だけのかかわりから、課題解決ノートを通して質問に対する答えや目標設定の修正等がきめ細かく行われ、生徒がより一層授業に意欲的に取り組むようになった。特に、ノート記入が生徒に定着し習慣化すると、自分のつまずきや悩み、正直な目標設定、疑問を素直に表現するようになった。

また、教員はノートを通して個別にアドバイスをすることができるので、生徒と1対1の関係をもつ機会が多く生まれ、彼らも期待をもって授業に臨むようになった。

このことにより、教員と生徒の双方向の情報交換を通して、適切な自己評価ができるようになってきた。そして、初期にみられた「頑張る」といった抽象的な表現からノート記入例のようにより具体的な目標設定が見られるようになった。

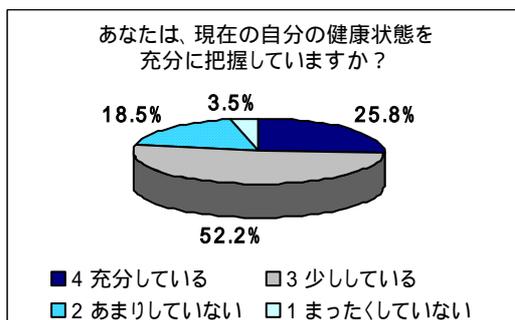
(2) 保健分科会

保健分科会【保健に関するアンケート集計（東京都立高等学校生徒1,297名）より】

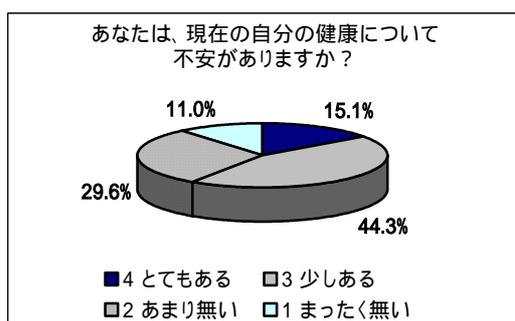
生徒の「健康」に対する意識調査

< 結果 >

・「現在の健康状態」を把握している生徒は「充分している」25.8%、「少ししている」52.2%である。両方を合わせると78.0%である。

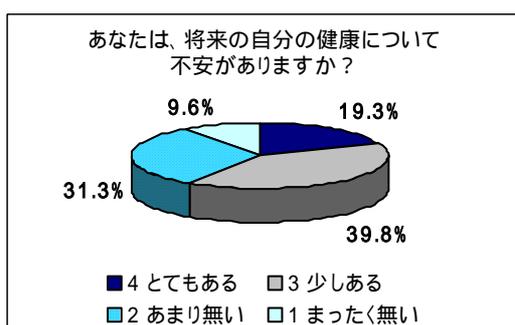


・「現在の健康について」不安をもっている生徒は「とてもある」15.0%、「少しある」44.3%である。両方を合わせると59.3%である。



保健部会では「生徒たちは自分の健康を過信しているので、生徒たちは現在の健康に不安はないのではないか」という推測を立てていたが、「自分の健康について不安がある」と答えた生徒が多かった。

・「将来の健康について」不安をもっている生徒は「とてもある」19.2%、「少しある」39.8%である。両方を合わせると59.0%である。

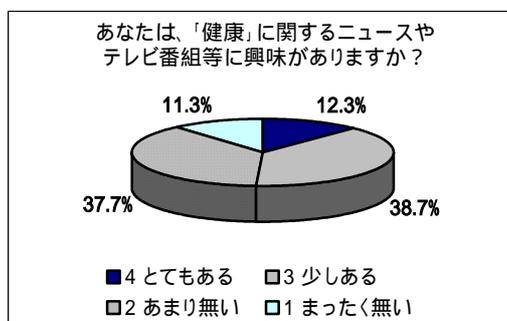
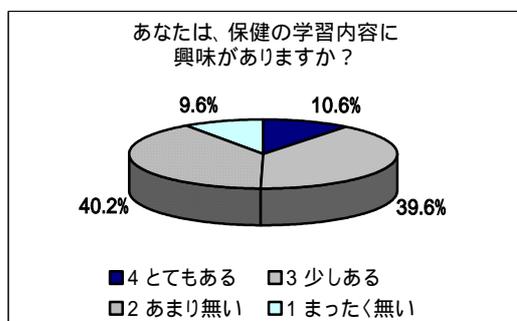


現在の健康についての不安と同様に、将来の健康に不安を抱えている生徒も予想よりも多かった。

< 考察 >

・不安を抱えている生徒が多いのは、適切に自己の健康状況を把握しておらず、自己改善のための行動選択や意志決定が困難であり、課題を解決することができないところに要因があると考えられる。そのことが、将来への不安にもつながると考える。

「保健」に関するアンケートについて



< 結果 >

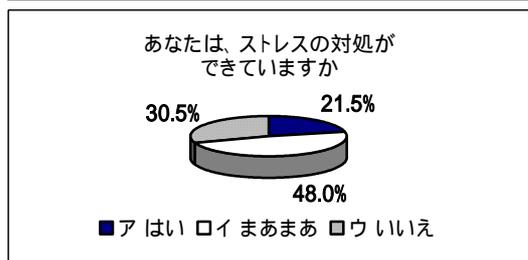
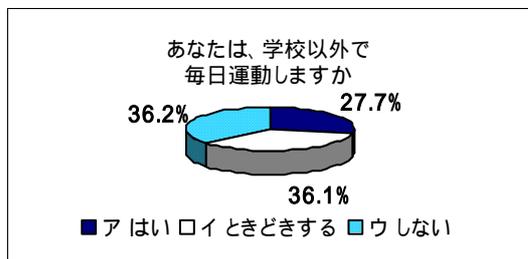
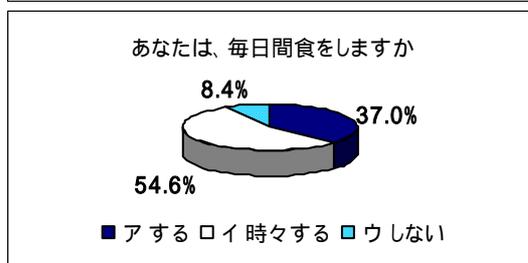
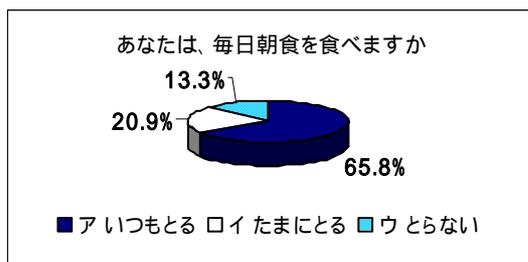
・「保健の学習内容」について、興味がある生徒50.2%、ない生徒49.8%と回答が半分に分か

れた。

- ・「健康に関するニュース、テレビ番組」について、興味がある生徒51.0%とない生徒49.0%と回答が半分に分かれた。

<考察>

- ・保健の授業や健康に関するニュース、テレビ番組など、健康に関する情報提供は様々なところから発信されているが、それを自分のこととして受け止めている生徒が、少ないと考える。
- ・このアンケートでは「自分の健康に不安がある」という生徒が多いにもかかわらず、興味が低いことは、健康に不安はあるが、関心が薄いといえる。



「生活習慣」に関するアンケートについて

<結果>

- ・「朝食について」いつも食べている生徒は、65.8%、たまに食べる生徒は、20.9%、食べない生徒は13.3%である。

- ・「間食について」毎日する生徒は37.0%、時々する生徒は、54.6%、間食をしない生徒は8.4%である。

間食をしている生徒は合計で91.6%の生徒がしていると答えた。

- ・「学校以外の運動について」毎日する生徒は27.7%、時々する生徒は36.1%、しない生徒は36.1%である。

保健部会の予測よりも運動をしている生徒は多かった。

- ・「ストレスの対処について」はいと答えた生徒は21.5%、まあまあと答えた生徒は48.0%、いいえと答えた生徒は30.5%である。

<考察>

保健部会では、毎日朝食を食べている生徒は半分くらいではないかと推測していたが、65.8%と

予想よりも多かった。反面、朝食を食べない生徒も13.3%いることがわかった。間食については、91.6%生徒が取っているが、間食と健康の問題との関係についての意識が低いといえる。

上記のようなアンケートの結果や考察から保健部会では、健康問題等について「わかっているが、やめられない」「知っているが、やっていない」という生徒が多いのではないかと推測をもった。そこで、「ライフスキル」に着目し、生徒の自己評価能力を向上させるような個に応じた学習指導を工夫した実証授業を行い、仮説について検証していきたい。

実証授業

ア 実証授業のねらい

2 学年の生徒に、単元「現代社会と健康」の中の小単元「健康にかかわる意志決定と行動選択」についての実証授業を計画し、研究主題に沿って実践した。

生徒自身が、生活習慣での健康に関する課題を明確にし、計画を立て実践する。単に実践するのではなく、自分の行動と目的に意識を十分集中することで、「興味・関心が高まり結果として継続する力を習得することができる」というねらいを考えた。

イ ビデオによる実験内容

事前に生徒3名の協力により撮影し、実証授業では5分間のビデオを放映した。以下の役割を分担し5分間のブラッシングを行った結果、「磨き残し確認液」によって生徒3名の磨き残し量を比較した。(特に3は、危険がないように留意する)

生徒	役割分担
1	鏡を見ながらブラッシングをする
2	寝そべてテレビを見ながらブラッシングをする
3	風船でリフティングをしながらブラッシングをする

表1 生徒が分担した役割

1の生徒は、一本ずつ歯を意識するように手鏡を見ながら磨く。

2の生徒は、寝そべてテレビを見ながら歯を磨く。

3の生徒は、登校前の慌ただしさを表現するため、風船を落とさずに歯を磨く。

結果：磨き残しの少なかったのは、 $1 < 2 < 3$ の順となった。

ウ 生徒が実施している健康行動での課題

下記の表2は、生徒の日常生活における健康行動の一例である。実証授業中の生徒の発言や、実証授業前のアンケート調査をまとめたものである。

生徒は、健康を題材としたテレビ番組や健康食品、健康用品の販売店舗数の増加等の影響もあり、健康への興味・関心は身近なものと認識している。表2のような行動(生徒が考える健康行動)を大切にし、実践していると答えた生徒は多かったが、健康行動に費やす時間の不足や回数や日数の経過等で、忘れたり集中できなかったり、「惰性的で回数をこなすだけの行動」になりがちであるという答えも多かった。そこで、実証授業では「行動とその目的に意識を集中して健康行動を実践する」ことの必要性を訴えた。

表2 健康行動の実践例

生徒の健康行動の例	複数あった行動の例	健康行動に「意識」を向けた例
睡眠時間の確保	長ければ良い	8時間を確保し、余裕をもった時間に起床する
バランスの良い食事	満腹になれば良い	テレビ等を消し、よく噛み、味わいながら食事をとる
歩く・階段を使う	歩けば良い	背筋を伸ばし、歩行速度を速めて有酸素運動を行う
筋肉トレーニング	回数をこなせば良い	反動を使わず、刺激する部位と呼吸法に集中して行う
毎食後に歯を磨く	磨けば良い	鏡を見ながら1本ずつ歯に集中して磨く

工 実証授業計画

1 対象 第2学年 38名

2 単元 現代社会と健康

3 指導目標 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。

4 各時間のねらいと評価規準

評価規準	ねらい	学習活動	評価規準		
			ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
個人の知識や価値観・周囲や社会環境などからの影響を受けながら、健康に対する適切な意志決定と行動選択ができる資質や能力を育てる。	1 時間目：生活習慣の自己改善 2 時間目：意志決定と行動選択及びまとめ	ア 関心・意欲・態度 健康的な生活を送るために個人の日常生活からヒントを探そうとしている	イ 思考・判断 生活習慣を振り返り、適切な行動選択するための目的・方法を見付ける	ウ 知識・理解 健康の保持・増進のためには、生活習慣での行動を継続・意識的に行う必要性を理解している	

時間	ねらい	学習活動	評価規準			おおむね満足の状況に至らない生徒への手だて
			ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解	
1 時間目	・毎日の「歯磨き」を例に取り、生涯を通じて健康の保持・増進は、適切な意志決定と行動選択と密接に関わることとを理解する。 ・歯磨きの例を参考に、1週間の日常生活での健康行動計画を立てる。 ・計画を行動する際に、自分の健康行動に意識を注意深く向けることを意識させる。	1 個人の知識を調べる 2 個人の生活習慣を振り返る 3 ビデオをみて考える 4 健康調査カードを作成する 5 本時のまとめ	ア 関心・意欲・態度 日常生活を振り返り、身近な生活習慣の中から改善できるところを探す。興味のある健康行動を、意識を集中して実施しようとしている。	イ 思考・判断 各個人の課題および解決方法を日常生活習慣から発見し選択する。	ウ 知識・理解 生徒それぞれの健康課題を理解し、自分に必要な行動計画を立てる。 健康行動を行う必要性ではなく、「意識を備える」ことが重要だと理解する。	既に生徒が日常生活で実行している行動を聞き、積極的に健康行動を行う必要性を理解させて目標設定を支援する。
2 時間目	・1時間目で作成した「健康調査票」で、1週間の行動を振り返る。行動の結果や課題設定を自己評価により意志決定し、今後の目標の再設定（行動選択）する。 ・集中しながら行動できたかを考え、健康行動の継続性を理解し実践できる力を身に付ける。	1 個人の知識を調べる 2 1週間の健康行動を振り返る 3 他者の体験を参考にし目標の再設定を行う 4 本時のまとめ	ア 関心・意欲・態度 各個人が課題達成に向けた意志決定により行動選択する。	イ 思考・判断 行動選択の過程について考え、改善点を探す。	ウ 知識・理解 自分の行動結果から、新たな目標の再設定をする。 健康行動を行う際の意識と行動を継続する重要性を理解する。	自分の行動結果の理由を考えさせる。 計画に無理は無かったか等を聞き、再設定を支援する。

オ 分析・考察

実証授業後に、生徒の保健に対する興味・関心を再調査した。B高校での保健の授業に「興味がある」という解答は、前回の約40%から約60%に上昇した。

実験ビデオをみた生徒(写真1)の感想から、「そういえば、何か他のことをしながら歯を磨いている」とか、「私も必ず鏡を見るようにしている」などの感想があがった。このクラスの生徒の多くは、ほぼ規則的な生活習慣を過ごし、前頁(表2)等の健康行動は忘れていないようであったが、無意識や習慣的な行動により、健康行動に意識を集中しきれていないということも授業の中でわかった。

実証授業では、将来の健康のために健康器具や栄養補助食品の購入、トレーニングジム等への委託や大掛かりなダイエットを計画するのではなく、睡眠や歯磨き等の日常で行っている健康行動の重要性を特に訴えた。授業後の感想やアンケートから、生徒は、授業で作成した「健康調査カード」(写真2)によって、日常での健康行動に関心をもち、意識を集中させるという目的をもって行動することができたことがわかった。生徒自身が設定した健康行動の目標と、その行動結果による自己評価や教員とのやりとりによって、生徒は次への課題や目標の再設定等を明確にし、生徒自ら健康行動を起こすきっかけをつかめたのではないだろうか。授業後の生徒とのやりとりも、健康調査カードにより生徒が自分の行動を思い出しながら教員の話聞くことができ、教員も生徒の健康行動をイメージしやすく、その生徒に適したコメントが書きやすく、会話も多く弾んだ。

実証授業や健康調査カード等を通し、生徒は日常生活での健康行動を改めて重視し、ただ習慣的に行うのではなく目的意識をもつことが大切であると理解できたはずである。

今後の課題としては、自ら健康行動を集中して行い、継続すること、健康は日々の積み重ねにより保持増進できることを生徒が理解し、自ら生涯を通じて意識的な健康行動を率先して実践すること、そして、その力を習得すること、であると考えている。



写真1 授業風景：実験VTRをみる



写真2 授業風景：健康調査カードの作成

カ 健康調査カード

健康調査カード

目標設定

自己の身近な生活の中から、課題解決可能な目標を設定するように助言する。

腕立て伏せ・腹筋・背筋を集中し20回、回数を声に出しながら行う。

設定理由

何故、必要なかを意識できるようにする。

体を鍛えることと、トレーニングを集中して行うため。

月日	曜日	*	できた理由・できなかった理由など	教員より
10/23	土		集中してトレーニングできた。いつもより汗をかけた。	知識・理解や思考・判断について生徒が考えることができるようにする。 鍛える筋肉を意識しましたか。休みを取ることも重要です。
10/24	日	×	日曜日なので、休みをとった	
10/25	月		回数を声に出さず、テレビを見ながら行ってしまった。集中できなかった。	
10/26	火		こんなことではいかん、とトレーニングに集中しながらできた。	集中した時は、効果も上がります。
10/27	水		だんだん、楽しくできるようになった。	継続できそうですね。
10/28	木		少し体調が悪かったので、さっとやってしまった。	休みを取りましょう。
10/29	金		最初と最後にストレッチもできた。	内容を修正していくことも重要です。

1週間終えた感想

教員より

意識を集中したら、いつもよりも汗をかけたので、トレーニングの実感がわいた。眠かったり気分が左右されたところもあった。

反動をつけずにやってみよう！

目標の追加・変更等

反動をつけずに、ゆっくりと呼吸をしながら行う。

月日	曜日	*	できた理由・できなかった理由など	教員より
10/30	土		前よりきつく感じたが、集中できた。	ゆっくり意識すると、トレーニング効果も高まります。どのように筋肉を鍛えたいのかによって、方法も考えてみよう。
10/31	日	×	部活で疲れて、そのまま寝てしまった。	
11/1	月		最後なので、特に集中できた。心地よい疲れを感じた。	

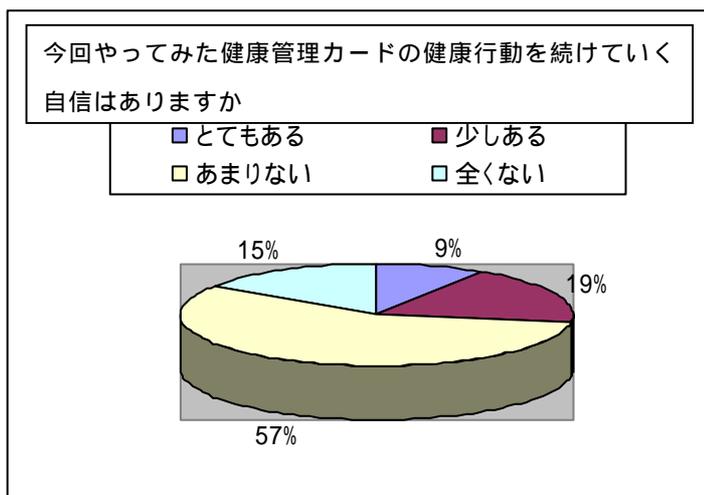
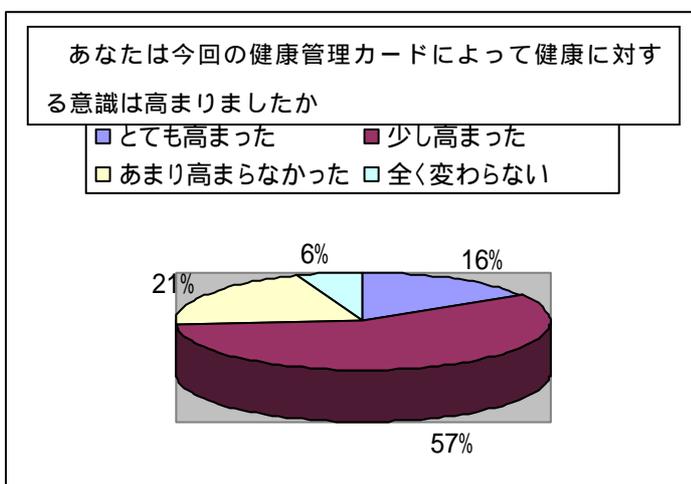
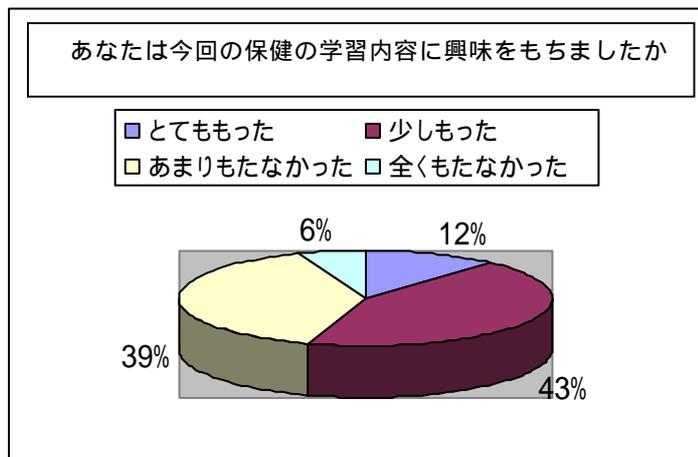
今後の抱負

教員より

意識を集中することの、大切さが分かったので、自分でも続けることができると思う。セット数や種目を増やしたい。

回数を急に増やさないこと

カ 授業後のアンケート集計結果・考察



のライフスキルの向上のために大切である。

7月に実施したアンケートの中で「あなたは、保健の学習内容に興味がありますか」(15 ページ)という質問に関して生徒の解答は以下の通りであった。

- 4 : とてもある (10.6%)
- 3 : 少しある (39.6%)
- 2 : あまりない (40.2%)
- 1 : 全くない (9.6%)

上記を参考に保健に対する意識の再調査をした。今回の研究授業によって生徒の保健に関する興味・関心がどう変化したかを見るのがねらいである。

実施した授業内容は「健康にかかわる意志決定と行動選択」の単元を使った。

の質問では、特に今回の学習内容に興味をもった(「とても」「少し」合わせて)という回答は55%であった。興味を全くもたないとする解答が6%であることから、授業の導入部分で比較的生徒をひきつけると考える。今後、より一層研修を続け、生徒が知的好奇心を抱く授業の導入を目指したい。

の質問では、70%以上の生徒が健康に関する意識が高まったと回答している。授業を実際に受け、健康管理カードの活用など、実際に自分で行動することによって興味をもち、理解することができたと考える。

の質問では、半分以上の生徒が自分で設定した健康に良い行動を続けていくことができないという結果であった。今後はさらに授業を工夫し、健康に良い行動を自分自身一人でも続けていくことの工夫や重要性を伝えて行くことが、生徒

全体を通してみると、保健に興味・関心の低い生徒に対するアプローチとしてはかなりの効果があったと判断する。前ページの授業後のアンケート集計・考察を見ればわかるように実証授業を行った後に、保健の学習内容への興味、健康に対する意識が高まったという回答は7割以上にのぼった。生徒の声としては「先生とのこういったやりとりはなかなかおもしろい」「普段の授業と違って新鮮だった」「1週間続けることはたいへんだった」という声が多数あった。今後、こういった授業をさらに工夫し、継続していけば、生徒の保健に対する意識はさらに向上していくと考えられる。

しかし、今回の実証授業により健康に対する意識の高まった生徒でも、前ページのアンケート、今後も健康管理カードの健康行動を続けていく自信があると回答した生徒の割合を見ると3割以下となってしまう。教員とのやりとりの中で考え、理解し、行動に移していくことはできるが、自分で考え、行動していけるようになるには今回のような授業をとおして鍛錬を繰り返していくことが大事であると考えられる。

キ まとめ

今回の主題は「生徒の適切な自己評価能力を高める個に応じた学習指導の工夫」である。生徒は一人一人能力や環境が異なる。我々は、その生徒たちが高等学校の授業により、適切な自己評価能力や自らの課題解決能力を伸ばし、運動・健康にかかわる適切な意志決定・行動選択ができるようになるには、生徒一人一人の個に応じた指導が効果的であると考えた。

生徒の教科「保健」に関しての興味や関心は、最初のアンケート結果を見てみても約半分の生徒が興味・関心をもっている。

実証授業や分析の結果、保健への興味・関心を高めて行くには、授業における導入の部分が大切であった。さらにそこで生じてくる課題に対し、健康管理カードの活用等の生徒の個に応じた適切な指導の工夫を行うことにより、生徒の自己評価能力が高まっていくことがわかった。今後は高等学校で身につけた知識、自己評価能力、そして実践力を生涯にわたっての自分自身のヘルスプロモーションに取り入れ、実践する必要がある。そのためには小学校、中学校そして高等学校で、興味・関心をもつ 意識する 実行する 理解する 習慣化する、といったトレーニングを行うことはとても重要である。そしてこのことが課題解決能力の向上にもつながると考える。

健康管理カードは生徒自ら考え、自分の健康に対する課題を発見するとともに、個別指導の有効な手段であると考え導入した。そして意志決定能力や行動選択能力を向上させるねらいがあった。

結果として、生徒一人一人とのやりとりにおいてきめ細かく指導することができた。今後、さらに授業の工夫や充実を目指し、生徒自身で健康行動が実践していけるような個人カードを工夫することにより、生徒は自分の健康や生涯にわたってのヘルスプロモーションを意識し、実践できるようになると考える。そういった点からも個人カードは科目「保健」においてきわめて有効な教材になるものと考えられる。

研究成果と今後の課題

1 研究の成果

本研究では、「個人カードによる個に応じた指導の工夫により、生徒は適切な自己評価を行うことができるようになる。」という仮説を立て研究を進めてきた。

「個に応じた指導」をきめ細かく実施していく上で、個人カードの作成をした。体育分科会では「課題解決ノート」を、保健分科会では「健康管理カード」を作成し、それぞれ学校の実態に即して活用した。その結果、次のようなことが、明らかになった。

- (1) 生徒が「課題解決ノート」を活用し、自ら課題設定をすることで、その課題を解決する工夫が学習活動の中で見られるようになってきた。
- (2) 生徒が「健康管理カード」を活用することにより、課題・目標設定能力を高め、主体的に行動し、実践力を高めることができた。
- (3) 生徒は、授業ごとに設定した「目標・課題」に対し評価をすることになり、適切な自己評価や自己分析ができるようになってきた。
- (4) 個人にとって身近な「目標・課題」を設定することで、課題に対し満足に至る状況をつくるようになり、意欲的に授業に取り組むようになってきた。

以上の結果から、仮説に対して次のような結論が導き出せると考える。

- (1) 個人カードを使用し、自己評価に対する認識を教員と生徒で確認することにより、生徒の自己評価能力を高め、生徒が適切に自己評価を行うことができるようになった。
- (2) 教員は生徒から提出された個人カードを使用し、生徒一人一人に対応することで、生徒の「意欲・関心」を高め、生徒の身近な生活での目標や課題の再設定を促すことができた。
- (3) 生徒が、主体性をもって健康行動の管理及び改善を実践することが、意志決定や行動選択につながっていった。

「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる」という高等学校体育の教科目標を実践する上で、生徒一人一人が、健康の保持増進について自ら考え、課題を発見し、意志決定・行動選択ができるよう、いずれの学校や授業においても日常的に行われ効果を上げてきた。

体育分科会の「課題解決ノート」や保健分科会の「健康管理カード」は、自ら考え、課題を発見することで、意志決定能力や行動選択能力を向上させるねらいをもっている。また、生徒にとって身近な「目標・課題」に対して自己評価を繰り返すことで、適切な自己評価能力の向上や獲得もあわせて視野に入れた。

生徒は、個別のファイルを作成し、絶えず、目標設定について見直しを行った。教員は、「課題解決ノート」「健康管理カード」等を活用することで、生徒一人一人とのやりとりにおいて、きめ細かく指導できた。その結果、体育や保健に興味・関心が高い生徒はもちろん、興味・関心があまり高くない生徒に対するアプローチやケアの部分でも、このノート活用は有効であると判断した。

課題の中から自己の課題を見付け、課題に対し取り組み、自ら評価することは、課題解決の方法を自ら学び、自ら考える資質や能力をはぐくむことにつながっていくと考える。

2 今後の課題

研究から以下の課題が明確になった。

- (1) 「課題解決ノート」や「健康管理カード」を用いて、個に応じた指導を実施したが、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」「運動技能」の異なる生徒に対応するには、時間や場所、教員の人数などの環境や指導方法、教材教具など、より一層の工夫が必要である。
- (2) 評価規準である「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」については、実証授業を通じて、課題解決ノートや生徒の状況を見て、高めることができたが、授業開始と終了時で、評価規準の高まりを、客観的に判断するための方法の工夫が必要である。
- (3) おおむね満足できる状況に至らない生徒に対して、最低限身に付けさせなければならぬ力を補充していく個に応じた指導は十分に行えたが、十分満足できる状況と判断された生徒に対し、発展的な指導を行えるように、さらに内容の工夫が必要である。
- (4) 「課題解決ノート」や「健康管理カード」などの個人カードを活用し、自己の現状を適切に理解する自己評価能力を高めることができた。今後さらに、日常生活においても実践できるようにするための工夫が必要である。

3 まとめ

本研究は、「生徒の適切な自己評価能力を高める個に応じた学習指導の工夫」を主題として、生徒一人一人が自己の課題や目標をもって取り組み、自己評価能力を高めることにより、生涯にわたって主体的にスポーツに親しみ、健康を適切に管理し改善していく実践力の育成を研究の柱とした。

そして、個人カードを活用した個に応じた学習活動を通じて、自己の健康や運動能力などの現状を客観的に理解し、より主体的に活動していくことがわかった。これまで、授業に対してあまり意欲が高くなかった生徒は、目標意識をもっていなかったり、興味・関心が薄かったり、自らの課題を発見できなかったなど、様々な問題を抱えていた。しかし、個に応じた指導により、より一層生徒一人一人が、課題や目標をもつことにより、客観的に自己の能力を確認し、常に自己の現状を評価し、授業に意欲的に取り組むことができた。

我々は、本研究を通じ、生涯にわたって運動に親しみ、健康に実践する能力を育成するためには、生徒一人一人が課題を設定し、意欲的に学習を行えるようにするとともに、生徒の適切な自己評価能力を育成することの重要性を再認識した。また、授業を通じて、生徒が生き生きと運動に親しみ、健康を目指し、意欲をもって主体的に取り組んでいくことが、実践力の育成に重要であることもわかった。

そして、運動や健康に対する楽しさや喜びを体験させ、心と体の一体化を重視した指導方法の工夫を図っていくことが、これからの教科としての「保健体育」ではさらに重要となると実感した。今後とも、さらに教材開発や指導方法の工夫を行い、一人でも多くの生徒が、明るく豊かで活力のある生活を営むことができるように努めていく。

平成16年度 教育研究員名簿（高等学校 保健体育）

	地 区	学 校 名	氏 名
体 育 分 科 会	第一地区	八 潮 高 等 学 校	加藤奈津美
	第一地区	南 高 等 学 校	阪本健次
	第二地区	都立大学附属高等学校	江島利治
	第六地区	科学技術高等学校	古閑伸幸
保 健 分 科 会	第六地区	本 所 高 等 学 校	齊藤博之
	第六地区	東 高 等 学 校	岩崎克弥
	第六地区	第三商業高等学校	茂呂真史

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 野村 公郎

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社